
「好き」の一言だけ…

ジャンヌ ダルク

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「好き」の一言だけ

【Zコード】

Z0416A

【作者名】

ジャンヌ ダルク

【あらすじ】

コナンは、ついに蘭に自分が「工藤新一」だと全て、自分の口から言った。そして、蘭の言った一言は?????

「コナンは夜、独りで考えていた。もつ、蘭に自分が工藤新一である全てを…話す。たとえ、蘭が何と言おうと…。明日の、夜・公園に誘つて…哀に、APT-X^{アボトキシン}4869の解毒剤～完全品～を、もう作つて貰つてるし。戻りたい時には、蘭に怪しまれる時に飲めば良いというコナンの考え方…。成功するか…。コナンは、考えを頭に入れ置き、ゆっくり目を閉じた。明日は、土曜日…。一人とも、学校は休みだ…。だから、ゆっくり話せる。

「次の日」

小五郎は、エリと、沖縄旅行三泊四日の旅に出ている。博士、哀、歩美、光彦、元太は、神戸に行っている。園子は、別荘でノンビリしているか…真とデート…。知り合いは家には居ない、小五郎が居ない為、毛利探偵事務所もお休みだ…。珍しく、今日は少し、蘭とコナンは、

暗い感じだつた、イツモなら小五郎が色々笑わすけれど、今日は小五郎が居ない為、盛り上らない…。

「夜 8時30分」

「う、蘭ねーちゃん…話があるんだ…、ちょっと公園行かない？」

「…？」

「あ、うん…」

コナンは緊張していた。心臓の音がバクバクしていた。でも、APT-X^{アボトキシン}4869の解毒剤～完全品～があるから、いつ怪しまれても、平氣だからだ。コナンは途中で歩きを止めた。

「ど、どーしたの？？？コナン君…」

「コナンの口は勝手に動き出したのだ…。

「蘭…もう、オレの事「コナン君」って呼ぶな…。オレは工藤新一だぜ？？今まで、ウソを、

付いてた。蘭が「コナン君が新一なんでしょ？？？」って言われた時は、「ち、違うよ、蘭ねーちゃん僕が、新一兄ちゃんな訳、ないじゃん！…！」と、何度も言い訳してた。全てウソだ…。」

コナンは、緊張しながら言つた。蘭は泣きながら言つた。

「知つてたよ！！！そんなの！！！コナン君が新一だつて事！！！私だつて、ずっと…ずっと…

コナン君が新一である事を知りながら、一緒に生活してたんだもん！！！ねえ、元の体に戻つて

私に、私に「好き」の一言、言つてよ！！！お願い！！！新一…コナンは、解毒剤（完全品）を飲み込んだ…、これでコナンは、大人になり新一へと戻る…。

『ドツクン、ドツクン』

心臓の音がまた、今度バクバクしてくる。コナンは新一に戻つた。新一は、イキナリ蘭を抱きしめた。一人は顔を赤くしていた。そして、新一は言つた…。

「好きだ…蘭…誰よりも大好きだから…」

こうして、二人は愛を誓つた。でも、コナンはどーするかと云うと、「急にコナンの母親、文代がコナンを迎いに来て、外国へと行つた」と、言う事にシテオク。それに、新一は黒の組織に生きてはいるがバレると大変なので今は名前を変えている。髪型も…。名前は、「江戸川新一」

眼鏡を欠けているせいか、優作に似ている。この秘密は、新一と蘭の二人だけのひみつなんだよ。

江戸川コナン（工藤新一）と毛利蘭のお話は幕を閉じたけれど、
次は、江戸川新一と毛利蘭の
ストーリーは新しく始まる。。

恋はまだ、始まつたばかり……！……！

終わり

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0416a/>

「好き」の一言だけ...

2010年10月28日03時30分発行